

## 2nd-3rd SEA 上海 Software Forum レポート

### 0. はじめに

350年振りに上海で皆既日蝕があることを記念して2つのフォーラムが開催されました。ここでは少し簡単に経過を説明しながら全体の概要をお知らせします。

SEA上海支部では技術交流活動として年に1度くらい広く参加者を募集してフォーラムもしくはワークショップを実施してきましたので、例年どおり今回も半日程度の会議を開催しようと計画しました。ところが皆既日蝕と上海のどちらが利いたのか参加者希望者が大幅に増えました。それも普段お目にかかれない最前線で活躍中の方々ですので、この機会を逃す手はありません。

出席者に大学での研究者も多いことから、中国での多様なネットワークをお持ちの岸田さんから先生方相互の日中意見交換も面白いのではないかとアイデアが飛び出し、第一目の国際フォーラムが実現しました。参加者は合計24名でそのうち日本からは13名、大学の関係者は日中併せて12名という構成になりました。上海の主要な3大学の教授と日本の先生方の発表を通じて共感することも多く、また教育への課題も多く見つかりました。

2日目のフォーラムは皆既日蝕フォーラムとして、4つのサブテーマを設けて発表と議論を試みました。そのサブテーマですが、初めから設けたのではなく参加者に興味のあるテーマや発表できる材料を募集したところ、多くの方々から応募がありました。主催者としては全員に発表いただくために無理に枠に設定し、さまざまなセッションテーマで1セッション2時間程度に4-6名の発表と討論を実施するという詰め込みフォーラムになりました。このフォーラムには参加者が20名、そのうち日本からは14名の参加がありました。常に時間切れと戦いながらも、有意義な意見交換が行われました。プログラム構成と運営などはソフトウェアシンポジウムなどでの経験を生かすことが必要かなと実感しました。

2日間の連続フォーラムに参加された方々は13名で、開催終了後に参加者にアンケートの記入をお願いしました。この報告書にも記載していますが、それを読むとおおむね好評だったのではないのでしょうか。

真夏に開催したこのフォーラムの初日は上海での気温が41度と今年最高温度を記録したとのことです。その暑さは真夏の夜の夢につながって、日蝕当日は残念ながら曇りと終結しました。参加された皆様からは是非再開したいとの希望が寄せられており、また上海で企画ができるよう願っています。

最後になりましたが、スムーズな運営に努力いただいた魯さんに感謝します。

(実行委員を代表して： 杉田義明)

## 1. プログラム概略

### ◆2nd Software Forum (会議は英語)

テーマ:「ソフトウェア技術者養成・日中フォーラム」

7月20日(月)13:00-17:00

12:30 - 13:00 受付

13:00 - 13:05 Opening

13:05 - 14:55 Session 1

「中国におけるソフトウェア技術者教育の現状と問題点」

Chair:岸田孝一(SRA-KTL)

Panelist:

- ・居 徳華(JU Dehua) (華東理工大学、ASTI)
- ・沈 備軍(SHEN Beijun) (上海交通大学)
- ・臧 斌宇(ZANG Binyu) (復旦大学)

14:55 - 15:05 Break

15:05 - 16:55 Session 2

「日本におけるソフトウェア技術者教育の現状と問題点」

Chair:米島博司(NEC ネットエスアイ)

Panelist:

- ・鯨坂 恒夫(和歌山大学)
- ・荒木 啓二郎(九州大学)
- ・鈴木 克明(熊本大学)

16:55 - 17:00 Closing

17:30 - 懇親会(会場は別途案内、参加費用が必要)

### ◆3rd Software Forum (会議は日本語)

テーマ:「最新のソフトウェアの課題とその方策・皆既日蝕フォーラム」

7月21日(月)9:00-17:00

8:30 - 9:00 受付

9:00 - 9:10 Opening 牧野憲一

9:10 - 10:25 Session 1 (座長:木畑)

「企業内での人材養成」

Speaker:

- ・古賀克之 (Class K)
  - 職場用スキル定義での ID 活用事例紹介
- ・牧野憲一 (オムロンソフトウェア) --- ID の勧め
- ・米島博司 (NEC ネットズエスアイ)
  - 目標記述: Objective Statement について

10:25 - 10:40 Break

10:40 - 11:55 Session 2 (座長: 古賀)

「教育方法論」

Speaker:

- ・和田勉 (長野大学)
  - コンピュータを使わないコンピュータ科学の教育
  - 「アンプラグドコンピュータサイエンス」
- ・鈴木克明 (熊本大学) --- e-learning 展望
- ・岸田孝一 (SRA-KTL)
  - ソフトウェア工学における技術移転について

11:55 - 13:30 Lunch

13:30 - 15:00 Session 3 (座長: 和田)

「開発手法」

Speaker:

- ・佐原伸 (CSK システムズ)
  - VDM を使った構造化と離散数学入門
- ・荒木啓二郎 (九州大学)
  - 形式手法の開発現場への導入について
- ・奈良隆正 (NARA コンサルティング) --- SQuBOK について
- ・鯉坂恒夫 (和歌山大学) --- PA/PD (精密分析/設計)
- ・臼杵誠 (富士通) --- 人間力重視のプロセス改善

15:00 - 15:15 Break

15:15 - 16:45 Session 4 (座長: 松野)

「中国におけるソフトウェア開発と運用」

Speaker:

- ・木畑雄輝 --- オフショア開発での品質管理及び TQM
- ・趙以諾 --- 中国における JAVA 言語の現状と応用
- ・森谷幸平 (Waseda Education Institute of Chinese)
  - 新しい学習理論と、IT 技術を応用した日本語学習サービス
- ・杉田義明 (Fukuzen) --- 中国での OSS 事情

16:45 - 16:55 Closing 牧野憲一

17:30 - 懇親会(会場は別途案内)

会場: 上海科学會堂 會議室(主楼、1205 室)

住所: 中国上海市南昌路 47 号-59 号

<http://www.sciencehall.org/>

## 2. 2nd Software Forum アンケート結果

### (1) 満足度

	不満足				満足	平均	基準 2.5
	1	2	3	4			
居先生	0	0	5	5		3.5	
沈先生	0	3	4	3		2.4	
臧先生	0	3	4	3		2.4	
鯨坂先生	0	3	2	3		3.0	
荒木先生	0	3	2	3		3.0	
鈴木先生	0	2	3	3		3.1	

### (2) 感想

#### 【中国側】

- 今労働局プロジェクトに参加しているので、先生のアイデアに興味を持ちました。
- Pinpoint the backwork of current IT education situation.
- Grately Interested by the idea of Knowledge Service Platform.
- ようやく教育の問題点をあげて教育の変革を語る人に会えたという感じ
- 問題点の分析対応方法が甘く新規の発見はなかったがまともな観点を見せてもらったので”3”。
- 健全で効果的な計画を建て現在中国ソフトウェア教育における不足を根本的に補わなければいけません。
- 広い知識も奥深い技能も要求されています。
- この先中国ではそういう教育方針が着々と実施されると良い方向へソフトウェア産業が発展できます。
- 中国で採用に関わった経験からいうと Bad Pattern や対処が企業側の考えと異なる。
- カリキュラム改革の流れが具体的で参考になった。
- Describry the ongoing trying program combining University with Industry.
- Course structure Computer Science versus Computer Application.
- 教育を変革していくニーズの必要性を、長年のご経験から浮かび上がらせ迫力満点でした。
- ソフトウェア学部の現状がよく分かり参考になった。
- 構成が×で飛びすぎでわかりにくい。
- 中国の大学の先生はみんな教育について大げさな内容を語るが出来る学生との Gap が激しい、こういう内容を聞くと教育のための教育を感じる。
- 理論中心のカリキュラムは実践的なものになるのは社会に応じる要求なのです。

#### 【日本側】

- 当該コースを選び学生が減っているのか、などの問題点にもフォーカスして欲しかった。

- PBLトレーニングの成果について、詳しく知りたいと思いました。
- Good Suggestions on the way of instructing software engineers/ to differentiate is to teach better.
- Necessary adjustment to the way lectures are delivered, I want to know more of the reason, why the worker of students are diminishing in computing science Dept.
- Outsider view good for the Insiders.
- 総合的な能力を育て専門以外の知識も必要なのです。
- いろんな手段を使って大学教育カリキュラムを改善し、産学連携を導入したら社会が求める人材を輩出できます。
- e-learning はこれからより一層人に受け取られるようになります。
- 心理学教育の実施をしているので大変興味深く拝聴いたしました。
- ミドルクラスの教育ということで期待したのだが、
- ID を使ったソフトウェアの教育に対する分析結果を期待したのだが、ID の説明で終わってしまった。詳細など理論の紹介は不要。

### (3) 今後の希望、要望

- 楽しかったです。
- 次回は産学一体の成果についての発表をしていただける方のお話もお聞きしたいと思います。

### 3. 3rd Software Forum アンケート結果

#### (1)満足度

	不満足		満足		平均	基準 2.5
	1	2	3	4		
SS1	0	0	9	4	3.3	
SS2	0	0	2	12	3.9	
SS3	0	1	7	6	3.4	
SS4	0	1	6	7	3.4	

#### (2)感想

##### 【SS1:企業内での人材養成】

- 発表する側の立場では、10分というのはやはり短かったです。でも、発表させていただけたことは、自分にとって、とても良い経験になりました。今回は自分の興味に重心を置き過ぎてしまい、議論を喚起するという面では貢献できませんでした。
- 企業内での人材育成は、まだまだ工学的には行われていないように思いますので、工学的なアプローチの存在と必要性を啓蒙するためにも、「企業内での工学的な人材育成の取り組み事例発表」に焦点を絞った Forum も企画／参加してみたいな、と思いました。
- 忘れ物を取りに行ってしまったので聞いていません。すいません。
- 古賀さん牧野さんが ID を活用して成果を上げられつつあることを頼もしくうれしく思いました。是非 SIGEDU の会で Before/After を紹介してください。
- 戦略的 OJT に魅力を感じた。
- 自分のテーマが今一つだった(米島)。事例で牧野さん、古賀さんが ID を展開されているのを聞いて大変うれしく思った。
- 道具である ID がなぜ今必要なのか、なぜソフトウェア開発に必要なのか。
- ID について不勉強だったので参考になりました。
- ID という人材養成方法はどのような風に進めるのか期待しましょう。
- たまたまでしたが、ID 前提の 3 人の発表だった。鈴木先生は、勉強はあとでよいとおっしゃったのが印象的だった。
- ID の活用は全社的に進める方法ではなく、小組織でやるべき→自社でも検討したい。
- Objective Statement は自社の方針管理で採用していたが末端まで浸透しなかった。(理由、P.C.CT のうち CT にしか注目していなかった。
- 各国(米、日、中)の学校教育によって文化が変わるが、国別に導入のポイントが異なるのではと感じる。
- 自社、(中国)で試して差異があるか確認してみようと思う。
- 企業内での ID 運用例が聞けて勉強になった。

### 【SS2:教育方法論】

- 3 者のどの発表も大変興味深かったですし、特に和田さんのアンプラグド教材を実際にみんなでやってみることができて、とても面白かったです。ああいう体験は、参加者だけがリアルに得られます。そういう観点でも、Forum の満足度が大幅に上がりました。
- IT 教育の具体的ディスカッションとなり、大変興味深かった。
- 日本の教育制度の問題点など勉強になった。
- 国家の教育方法論の議論が多い。(興味が湧かない)
- ID の美学対象者の動機付けの考え方として、参考になった。(導入方法は難しいと感じている)
- 和田先生の実演は何を教えたがっているのかがよく分かった。文教省の誰をつつけば取り上げていただけるのか、今後の活動に期待する。
- 小中学校向けの学習は面白かった。新入社員や基本を押さえる教育にも使えるように思われた。
- 5つの ID 美学に興味有り。
- 情報教育の重要性を社会に伝達する活動をもっとしましょう。
- 初等から高等教育の議論が興味深かった。
- 初等教育で論理の大切さを感じた。
- 和田先生のハンズオンは興味深い試み。是非広めるべきだと感じました。
- ID の適用を考えます。
- 和田さんのプレゼンが目からウロコ、もっと聞きたい。

### 【SS3:開発手法】

- 発表テーマ/発表者が少し多すぎた気がします。個別の発表内容は多様で興味深かったのですが、それで逆に、Session 全体を俯瞰した議論がうまくできなかったように思いました。
- 鯨坂さんの方法論に興味ありもっと詳細を知りたい。
- 小生には開発手法についての話は理解力不足でした。
- 臼杵さんの話で我々に返りました。研修の背景についてもっと知りたいと思いました。
- PA/PD の手法に興味を持ちました。
- ソフトウェア開発手法、フォーマルメソッド、PA/PD が ID と同じコンセプトアプローチであると感じ良かった。
- 人間力の内容は大変興味深いものでした、日本固有の問題提示かも。
- どれもが参考になった。活かして参考にしたいと思う。
- SQuBOK、フォーマルメソッド、PA/PD、VDM,,新しく聞くキーワードをいくつか紹介していただけ感謝しております。
- 形式手法を用いた project を実践したが失敗に終わった経験がある。どこまでも詳細に書いてしまう。読める人が少ない等が原因だった。読める、書ける、教えられるの、レベル設定 & スペシャルリテイ制度など参考にして次回 try して見たい。



- 人間力を重視する事が品質マネジメントにつなげるという発想がおもしろかった。

#### 【SS4: 中国におけるソフトウェア開発と運用】

- 中国で働いている方からリアルな情報や知見を聞くことができ、大変参考になりました。せっかく上海での開催だったので、もう少しこの枠に時間が欲しかったです。それくらい、議論したい点を多く見出せたセッションでした。
- 全てのプレゼンが有意義であった。中国の実情をもっと知りたいと思う。
- 中国の現地の興味深い実態を聞くことができ有益だった。
- 中国事情がよく分かりました。これを抱く実のフォーラムより前に聞けたら良かったなと思いました。
- 中国における CMMI 事情がわかり有益であった。
- 中国の人材育成の現状、趙さんの発表が大変参考になった。
- 現地の生の声が聞けて有意義でした。
- OSS参考として聞きました。
- 中国におけるソフトウェア開発は中国政府と政策に応じて進めないといけない。
- 政府政策をはじめ現状がよくわかった。
- OSS活用が中国で予想以上に多い、コミュニティの数がおおくなっている。IT 市場の活性化は日本より進んでいる、辞書のビジネスの参考にしたい。
- オープンソースが中国にてかなり広まっていることが分かりとても興味深かった。

#### (3) 今後の希望、要望

- 今回のセッション4のようなものが良い。(実業界の人から中国の実状、実態を話してもらいたい)
- お世話になりました。来てよかったです。
- 上海でのフォーラムは毎年やりましょう。毎回季節を変えて。
- 会場準備などスムーズな運営に感謝します。
- 今回のフォーラムは参加して良かったです。
- 以下を提案致します。縁の下の協力は惜しみませんので、検討していただけるとありがたいです。

##### 1) 工学的な人材育成の具体的実践事例を共有するイベントをやって欲しい

構成: 実践事例発表(複数) + 共通する課題や方法論に関する議論

これは、SEA 上海ではなく Sigedu への提案であり、効果を考えると、日本での Forum または Workshop がいいのでは?と思っています。

##### 2) 来年も上海で Forum を開催して欲しいこちらは SEA 上海支部への提案です。SEA 九州支部と合同開催でもいいですね。せっかく地理的に 近いので、九州と上海の状況を相互に共有し、交流を深められると嬉しいのですが、九州側のがんばり次第でしょうね。

#### 4. 発表者および参加者感想

##### ■和田 勉(Ben T.WADA):長野大学

SEA の活動にも教育分科会 SIGEDU の活動にも、ひさびさに参加しました。

現地側の皆様、日本で準備をなさった皆様、御参加の皆様、たいへん御世話になりました。

中国(大陸)にも上海にも、20 年前から何度か訪問していますが、夏の上海は初めてで、聞きしにまさる暑さを実感しました。空調が普及していなかったころ(あるいはいまも無いところ)では、現地の人はどうやってのりきっているのでしょうか…

フォーラムでは、1 日目では上海でのソフトウェア技術者育成教育のようす(すごさ)がよくわかりました。2 日目では、ID 等の私にはうとい話もたくさん聞かせていただき、たいへん勉強になりました。また、中国国内で活躍しておられる中国人や日本人の方々と知り合えたことも、たいへんありがたかったと思います。

私自身は、少々場違いかとも思われた「アンプラグドコンピュータサイエンス(Computer Science Unplugged)」を紹介しましたが、思いのほか興味を持ってくださったようで、幸いです。

当日は YouTube にアクセスできなかったため上映できなかった

アンプラグド(<http://www.csunplugged.org/>)の

ビデオは以下にあります。

<http://jp.youtube.com/watch?v=pNXQB1enRzc>

<http://jp.youtube.com/watch?v=hS18mMPA25Q>

中国語版もあり、実は日本語版より充実しています。

<http://www.youtube.com/watch?v=5CAccSeo2Rg&feature=related>

<http://www.youtube.com/watch?v=6PsdKQ2SjX0&feature=related>

[http://www.youtube.com/watch?v=\\_XPuB29\\_xts&feature=related](http://www.youtube.com/watch?v=_XPuB29_xts&feature=related)

##### ■古賀 克之:Class K

主催側の皆様も、参加者の皆様も、ありがとうございました。

中国の大学および企業の状況を、実際の当事者から直接聞くことができた点がとても勉強になりました。

また、日本からの参加者による発表もたくさんあって、色々と学べてよかったです。

中国は急激に変化し続けているように思いますので、

今後も継続的に中国を訪問したいと思いました。

今回と同様、フォーラム参加という形で訪中できると嬉しいです。

また、上海のパワーを実感し、地理的には上海に近い九州も負けずに盛り上げていかねば、とも思いました。

今回のフォーラム(2日目)は、日本からの参加者全員が少しずつ発表しましたが、やはり最後のセッションの中国側からの発表が最もインパクトがありましたし、時間をかけて議論するに値する論点がいくつも提供されたように思います。次回は、冒頭で中国側からの事例発表や課題提起を実施してもらい、それらを受けて、日本側からの参加者を交えた議論を展開するプログラムだと、双方にとって有益で活発な議論を多くできるような気がしました。

今回の上海に限りませんが、海外のイベントに参加すると、日本では得難い気づきを多く得ることができます。これは国際感覚を得るためには必須の体験だと思います。また、異国では日本からの参加者同士の交流も、立場を超えてとても深まります。このような体験は本来、今現在日本の現場で働いている若いエンジニアやリーダー達にこそ必要であり重要なのではないかと考えています。しかし、最近は何の企業も経営が厳しく、こういう体験ができるような海外出張の機会はむしろ減っているのかも知れません。

ということで私は、今回の自分の体験や得られた情報を、身近なエンジニアやリーダー達に積極的に伝えよう、とも思いました。

#### ■山越 正俊:バルトソフトウェア

朝、フォーラム会場である上海科学會堂に着くと、まず素晴らしい歴史的建物に感動した、そしてここが上海であることを実感できた。特に中2階のステンドグラスには目を奪われた。

私はSEAフォーラム参加は今回が初めてでしたがプログラム全てのセッションが私には新鮮で興味深いものであった。

特にID(Instructional Design)なる言葉は恥ずかしながら初耳であり日頃の不勉強が身にしみた。今回、発表内容そしてディスカッション内容を聴講できたこと、そして少しなりとも理解できたことは良い体験であった。(20年近くSEA会費を払い続けたのは無駄ではなかった:笑)

今回のフォーラムタイトルでもある皆既日食を上海にて体験できた。残念ながら天候に恵まれず、ほとんど日食を目視できなかったが夜のような暗闇と気温が5度近く下がる貴重な体験を得たのは良かった。日本の神話では太陽の神「天照大神」が岩戸に隠れる場面が日食を指すとされている。

弟(アメリカ金融)の悪行に怒った天照大神が天の岩屋にこもり世界が真っ暗になってしまう。ほかの神々(真面目なエンジニア)が宴会を始め興味を持った天照大神が岩戸を少し開いて姿を見

せる(ダイヤモンドリング)、そして世界に光が戻る。

フォーラム参加メンバの毎夜の上海宴会にて日本経済に光が戻ることを祈っております。

最後にSEAフォーラム参加の皆様へ、新参者へのやさしいご配慮に感謝申し上げます。

■木畑 雄輝:西安千翼軟件有限公司

今回、SEAのフォーラムに初めて参加し、通常では得がたい経験やお話を頂戴した事にまず感謝したいと思います。

初日については英語でかつ教育という事で、聞く事に専念しておりました。ただ、中国でやってきた経験から申し上げますと、当地では我田引水の発表が多いので、中国側の発表を「またか」と思って聞いていたのも事実です。その中で居先生が問題点(就職難)を直視する発表を行われていたのは新鮮でした。

2日目は自分の発表をひかえていた事もあり、やや緊張しながら拝聴しておりましたが、正直な感想を申しますと知らなかった内容も多く、ついていけるか微妙な時間もありました。ただ、新たな気づきも多く「これは使える」「なるほど」と思った事は一つや二つではありません。また、奈良さんが一言言及されておられましたが、日科技連が SQuBOK を中国に展開している、という話は非常に興味をそそられました。

皆様が素晴らしい理論を話されている中で、理論とは関係なく当地での経験をセッション4にて発表させていただきました。拙い内容で聞き苦しい点もありましたが、皆様の興味を多少ながらも頂戴し、少し安心致しました。ただ資料に不備等もあり、ご指摘等を頂戴しながら答えられなかった点は反省しております。

改めてフォロー資料、参考資料をその場にて提供いただいた奈良さん、臼杵さんにお礼申し上げます。

ただただ、感想を並べておりますが、最後にできればSEAの活動を西安にて広げられるよう、努力して参りたいと思います。

■岸田 孝一: SRA先端技術研究所

1986年の夏、北京で開かれた国際ワークショップに招待された帰途、家族を連れて西安経由で訪問したのが、わたしの上海との出会いである。早いもので、あれからもう四半世紀の時間が経過した。あの時は、いま改装工事中の和平飯店に泊まった。夜遅く、まだ高校生だった上の娘を連れて南京東路を散策した。とある有名レストランの前の歩道にこげ茶色のテニス・ラケットのよう

なものが積んであったのだが、しかし、よく見るとそれは骨付き豚の腿肉を干して薄切りにしたものをそのままむき出しで路上に置いてあるのだった！

そのときホストしてくれた上海ソフトウェア・センターとの話し合いで、翌年の秋に、錦江飯店の南楼で、第1回の日中シンポジウムを開催した。それが翌年以降も SEA 主催の日中国際会議として続けられ、いまの IWFSST(International Workshop on Future Software Technology)になった。

JU Dehua(居徳華)先生と最初にお会いしたのは、この第1回日中会議の時である。先生は Raymond Ye さんが文革直後の北京政府を動かして始めた国家レベルのソフトウェア工学プロジェクトのメンバーで、そのころは Form ベースのビジネス・アプリケーション・ジェネレータ(第1世代 CASE ツール的一种)の開発を手がけられていた。SHEN Beijun(沈備軍)さんや ZANG Binyu(臧斌宇)さんは当時まだ大学生だったと思う。

今度のワークショップ会場「科学会堂」でのイベントは、わたしにとっては3度目になる。

日中会議との関係で上海ソフトウェア・センターの顧問として招かれて講演をさせられたのが最初だった。1980年代の終わり、季節は冬。まだ電力事情が悪く、揚子江以南は全面暖房禁止という時代で、オフィスの中でも、また会議ホールでも、スピーカ、聴衆を問わず、全員がオーバーやヤッケを着込んでいた。とてもいまでは考えられない。

2度目は、Ju 先生と一緒にソフトウェア技術のセミナーを企画して1階のホールを利用した。ちょうど上海ヤオハンが開店したばかりのころだった。浦東のテレビ塔はまだ工事中だったように記憶する。タクシーに乗って「ヤオハン」といっても通じない。しかたなく漢字で「八百伴」と書いたら「なんだ、パーバイパンか！」あのとき、雨の中を歩いて見つけた激辛の四川料理屋さんは、いまだこへ消えたのだろうか？

OHP シートやマーカーを余分に持ち込み、最後にお土産として置いてきたのが最初のジョイント・シンポジウムの時代だった。ポータブルの OHP プロジェクタも持って行って、会議終了後はやはり置いて帰った。あのころから考えると、中国の社会事情はまさに長足の文明開化を遂げたといってよいだろう。

しかし、社会のソフトウェア面における整備は、まだまだのように感じられる。SEA のように、所属する組織(会社や政府機関)から独立した技術者個人から構成されるコミュニティ活動が、ほとんど存在しない。わたしは一昨年からは CSSPI(China System & Software Process Improvement) という会議の海外アドバイザーを仰せつかっているのだが、このイベントを主宰する China SPIN という組織は中央政府から多額の予算を貰って活動している官製の団体であって、名前は似ていても

SEA-SPIN や JASPIC とはまったく異なる。

数年前、IWFST 会議の際に中野先生が上海市政府の関係者に呼ばれて、オープンソース活動について訊かれたことがある。日本ではその種の活動は有志のボランティアが中心になって進めているのだと説明したところ、「中国ではそれはまだ無理だ。やはり市政府がしかるべき委員会を組織し、いくつかの会社に加勢してもらって、市政府あるいは会社の仕事としてやらなければ動かない」といわれたそうである。

その意味で SEA 上海の企画・運営するいろいろなイベントが、これからの中国社会を変革するための小さな刺激として役立つことを願う。

-----

さて、今回の Forum の感想を簡単に記す。

20 日午後の国際 Forum では、最初の「上海セッション」をオーガナイザとして司会させていただいた。

最初のスピーカ: SHEN さん(上海交通大学)とは、かの女が大学の先生になる前、JU 先生の ASTI 上海で働いていた時に、プロジェクトのリスク管理ツールの開発(いま SRA で売っている RATS のプロトタイプ)と一緒に仕事をしたことがある。なかなか優秀なテクニカル・マネージャだった。ISFST2001 in 鄭州 ではプログラム委員長をお願いした。8月に開封(水滸伝の舞台、旧北宋の首都、その後の洪水で当時の都はいまの開封市の地下に埋まっている)で開いた PC 会議はもの凄い暑さだったことを覚えている。上海交通大学・軟件学院における教育は、産学の連携を中心にしているようだが、学生数が多いのに比較して教育スタッフが足りないというのでかなり苦勞されているように感じられた。

2番目のスピーカ: ZANG さん(復旦大学)は、SRA の YE Yunwen(葉雲文)さんと大学の同期生。優秀なシステム・プログラマで、上海の外資系メーカーで言語プロセッサの開発をしていたのだが、軟件学院設立にともなって大学へ呼び戻された。現在は、本校の計算機科学科副主任、そして並列処理研究所長と、3つの仕事を兼務していて、とても忙しそう。数年前に浦東の軟件学院を訪問したとき、坂村健さんのユビキタス・ネットワークング研究所と共同プロジェクトをはじめるという話を聞いたので、その後どうなったかが知りたかったのだが、「あれはもう終わった」とのことだった。復旦大は名門校だが、もともと文科系でコンピュータまわりは上海交通大に比べると一歩遅れている。その差を縮めるべく頑張ろうという意気込みが感じられる発表だった。

最後のスピーカは JU 先生。ふだんは物静かな紳士だが、プレゼンになるとうって変わって雄弁になるところは相変わらず。わたしとほぼ同年代だが、年を取るにつれて次第にご意見が過激になってきた。CoP (Community of Professionals) を作りあげることが大切だとおっしゃることにはまったく同感だが、はたしていまの中国でどのようなアクション・プランの可能性があるのか、いずれじっくりお話を聞いてみたい。

セッション運営上の反省としては、各自の発表を20分に抑えて、最後に残りの1時間を自由討論にしたのはちょっと失敗だった。むしろ各人に30分ずつの時間を割り当てて、その枠内で発表と質疑をしたほうがよかったのではないかと思うが、もはやあとの祭り。

21日の皆既日食フォーラムは、いろいろな人のさまざまな話を聞くことができ楽しかったが、運営スタイルとしては、今回のように各人がそれぞれ自分の仕事に関連する発表を順番に行うというよりも、あらかじめいくつかの討論テーマを決めておき、すべての参加者に自分が選んだテーマについてのポジション・ペーパーを事前に提出してもらい、そしてセッションの司会者が全員のポジション・ペーパーに目を通して討論の筋立てを考えてパネル討論を行うというかたちのほうが、相互の交流を深める上で適しているのではないだろうか。日本での SS は、数年前からそのような運営スタイルに変えて、参加者から好評を得ている。

テーマは、やはり上海でのフォーラムなので、ソフトウェア開発技術あるいは管理技術についての具体的な話題がよいだろう。討論を通じて、日本と中国との違いあるいは共通の問題点がわかってくるのではないかと思う。

#### ■佐原伸:CSK システムズ

(1)2日目のフォーラムでは、1日目のフォーラムでの内容に刺激を受けて、ソフトウェア技術者の育成には、(1)仕様記述の基礎として形式手法ツールを通した離散数学の教育、(2)モデル作りの経験蓄積のための囲碁、(3)協調性を育てるためのサッカーが必要との三位一体説を唱えたが、あまり受けなかった :-)

(2)最近の SEA の集まりとしては珍しく、中国と日本の若手・中堅の人たちが参加したのが良かった。参加者の専門・興味が多種多様で、やや議論が発散した面もあるが、異質の考え方に触れることができたのも良かった。特に、最近の日本での「私の会社の問題は、コンサルタントであるあなたが、無料で分析して解決すべきだ。」といった弛緩した横柄な人たちの態度にうんざりしていたので、日中両者の元気の良い議論は楽しかった。古来、異質なもの同士が混じり合う中で新しい流れが出てくるので、今回のフォーラムがその端緒の一つになれば良いと感じた。

(3) 中国入国から出国までのいろいろな場面で、中国の官僚制の方が、日本の官僚制よりまともであると感じた。少なくとも入出国手続きを行う日本の係官の態度のひどさと、中国の係官の愛想の良さは段違いであった。日本では起こりえない小さな問題はいくつかあったが、それを解決する過程での中国の人々のマニュアル化されていない対応が心地よかった。

#### ■ 臼杵 誠: 富士通

今回は開催間際まで、昨年末からの不況とインフルエンザにより参加するか否か迷いましたが、家内の心温かい理解によりなんとか参加できました。家内は杉田夫人と再会でき楽しく観光できたことが良い思い出となったと申しております。杉田さん、お世話になり本当にありがとうございました。前回観光する時間があまりなかったので、今回はせめて豫園や博物館は是非とも行きたいと思っており、それが実現できたことが私にとっては嬉しかったことのひとつです。ただ、上海の夏を甘くみていてこんなに暑いとは思いませんでした。特に炎天下の元、博物館の前で並んでいるときが一番辛かったです。やはり、上海蟹の美味しい秋が良いですね。食事については、今回は2人で食べに行く機会がありました。教訓として、当たり前のことですが、上海料理などは大勢の人が食べるように一人前が多いことを考慮しないとイケないですね。

もちろん、皆既日食フォーラムに参加させていただき、中国の企業の状況を実際の当事者から直接聞くことができたことが大きな収穫でした。皆既日食は皆様とご一緒したかったのですが、朝8時の時点であきらめてしまい空港に向かいました。日食はホテルの窓から一瞬見えたのが全てでした。ホテルから浦東空港に向かうタクシーの車中で、土砂降りの雨の中、辺りが”白昼の闇夜”に変わった貴重な体験を味わうことができました。

次回は過ごし易い季節にフォーラムがきっとあると信じて、皆様との再会を楽しみにしております。再見

#### 【追記】

上海には、去年は上海蟹が食べたくて同行し懇親会に参加させていただきました。中華料理を期待通り堪能し、夜は岸田さんのお部屋で酒盛りをし、滞在中は初対面にも関わらず岸田さん、杉田さん両奥さま方には観光からランチのお店選びと「るるぶや地球の歩き方の上海」と「日常生活の上海」をたっぷりと満喫と同時に「日本人のおもてなしの心」も学ばせていただきました。それから数ヶ月。。。また上海に行くことになるとは。すっかりご無沙汰している無礼を恥じつつも、また杉田さんの奥様にお付き合いいただきました。

東浦地区は万博の工事でホコリがすごかったですし、車線も多く横断も命がけでした。その一面にある森ビル 101階の展望台は今のところ世界一の展望台とか。展望台まで2分、振動もなく一気に上昇し日本の技術に唸る。エレベーターは日立だったか？シンドラではなかったです。



上海は、観光地はどこも欧米人受けするように意識して造っているように思えます。これは当局の意向なのでしょう。そんな中、近代的に整備されたビルの間から、西洋風の建物の間から電動自転車が通り、洗濯物が干してあると私の期待する上海に「そう、これこれ」と思う。今回も懇親会に参加させていただき、ありがとうございました。皆様のお名前は存じておりましたので、お名前とお顔が一致しお食事も美味しくお話も楽しく、醸造アルコールが入っていても美味しい日本酒を知ることができました。

上海の暑さよりも湿気のせいか東京の暑さの方が息苦しく感じます。皆様お体をご自愛しご活躍ください。本当にお世話になりました。

多謝。

#### ■ 鯨坂 恒夫:和歌山大学

初めての上海(初めての中国)であった。情報過多の現在にあって、あるいは自身の感受性の鈍化が原因かもしれないが、とりわけ初体験として驚くほどのことがなかったのは、文明の画一化に向かう大都会のせいだろう。ただ、日本やヨーロッパに比べて、街をいく若い人は明らかに多い。少子高齢化の程度は画一でないようだ。

この現況と、フォーラム初日に聞いた中国のIT系大学生のキャリアパスが思わしくないという話を単純にあわせると、団塊的大競争時代が続いていると帰結されるが、事情はどうやらそれほど簡単ではないらしい。社会の体制と慣習が異なる日中をストレートに比較できるかどうかはわからないが、産業界対学生のスキルとウィルのマッチングに関する基本は共通するはずで、さらに詳細な議論が期待される。

フォーラム二日めに得られた思いでぜひ書き残しておきたいのは、初等・中等教育での教科としての情報の導入(高校教科については改善)である。情報環境が劇的に変化して今で約10年。これは急いだほうがいい。相当な大ごとであり、何をどうしたらいいのか、ここではその端緒すら示すことはできないが、教科としての情報は基礎知識・学力だけではなく、論理力からコミュニケーション能力・規範意識へとつながる、すなわち人間力を養成するベースになるような気がしている。

#### ■ 窪田 芳夫:ユーエスイー窪田IT事務所

SEAでの議論は今回の上海に限らずいつも新鮮で脱線気味で楽しく参加させていただいています。20年前APEC/TELの会議で参加した初めての上海は物凄く汚くて自転車が道路上に溢れ、夕方になると暑さを避けるため大勢の人たちが道路の縁に座り込んでいるのが強く印象に残っています。ところで今回は驚くほどの変化で中国は既に日本を追い越したのかなと率直に感じました。

セッションはそれぞれに良く資料を纏められ説明も若干短かったかも知れませんが、聞き手にとって楽しく楽に参加できました。各講師の方の積極的な話し方も大変良かったと思います。総じて若い人たちの文章表現力の低下と日中の言葉の細かいところでの解釈のむ難しさなど数々教えられたことがありました。

行いの良い人ばかりのはずが肝心の日蝕は雨降りに見舞われ大変残念でしたね。この種のフォーラムは大変有意義ですね。関係の皆さんの努力に感謝します。

■鈴木 克明:熊本大学

【初日分】

中国側のプレゼンを聞きながら、以下の Take-away Messages を冒頭(2枚目のスライド)に挿入してインストラクショナルデザイン(ID)についての宣伝をしました。かなり刺激的な論点にしたつもりでしたが、90%講義でソフトウェア技術者教育をやってきたという中国の頑強な研究者たちのハートをどこまで射止めたか、今後の展開を楽しみにしたいと思っています。伝統を変えなければならない、という中国側の熱い思いは伝わってきましたので、もしそうであれば ID が役に立ちますよ、というメッセージを受け入れてもらう好機かもしれません。

- 1) Instructional Design can provide effective, efficient, and appealing teaching methodology in your software (engineer) education (I hope so).
- 2) Application skills can best be taught by authentic (but not real) job experiences (projects) in (under)graduate education, not by lectures.
- 3) Just-in-time knowledge provision is most effective, not before application of knowledge, but after failure of the first skill application.
- 4) I will show you some examples to make you believe in my above messages and encourage you to do something with what I explain.

【日食フォーラム分】

10分でプレゼンせよ、ということで、最近やりだした「ランチョンセミナー」(注1)のことを思い出し、このフォーマットが良いかなと思い準備を進めましたが、紆余曲折あり、拡大版自己紹介に終始してしまいました。顔ぶれを見て、小生が講義がしたいという欲求を我慢して、100%オンラインで教える大学院(注2)で、しかも VOD(ビデオオンデマンド=録画された講義をいつでも見ることができる方式)は使わないという自らが打ち立てた科目共通設計ポリシーにしたがって教えて4年目になる、という日々の紹介も興味を持ってもらえそうかな、と思ったのがその最終決断の背景でした。一部の人(SIGEDUの顔見知り)には退屈だったかもしれませんが、これはこれで良かったかと。

注1:熊本大学 e ラーニング推進機構ランチョンセミナーでは、過去の PPT ならびに音声記録を公開しています。

<http://adev.iied.kumamoto-u.ac.jp/wpk/>

注2:熊本大学大学院教授システム学専攻の詳細は、下記から。公開科目もあります。

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>

さらに、もう 10 分頂戴して話したのがランチョンセミナー第 18 回で取り上げた「インストラクショナルデザインの美学・芸術的検討」という中身。そうだよ、これなら話が分かる、Narratology という分野に関連している、など好意的な反応をいただき、感謝しています。その後、関連資料を上海 ML 宛にお送りしたところ、参加者の一人(古賀さん@Class K)から次のようなメールも頂戴しました。ということで、無断借用して一部引用させていただき、「上海行って良かったなあ」という感想に代えます。多謝。

——ここから引用——

資料「ストーリーテリングとしてのデザイン」のご提供、ありがとうございます。

ご存知かも知れませんが、ソフトウェア開発の分野でも、論理的／分析的なアプローチに追加する／補完する形で、同じような手法が使われています。

具体的には、企画や分析の段階で、ペルソナ法(\*1)を使ったり、利用シーンを文章にしたシナリオを書いたりしています。具体的な顧客像を作り、その顧客視点で全体を統合的に見て心理面を含めて検証するという点において、目的やアプローチは非常に近いと思いました。

\*1:解説記事の例: <http://www.atmarkit.co.jp/fbiz/cbuild/study/usability/00/00.html>

(中略)

もしかしたら ID の分野でも、理論や分析手法が一段落したことで、「失敗の少ない、効率的な」という段階から、もう 1 つ上の「顧客満足度の追求」などが求められたり追求できるようになったりしているのかも知れませんね。(推測ですが)もしそうであれば、やっぱり ID もソフトウェア開発も似ているなあ、と思います。どちらも工学的なアプローチが必要だけど、相手が生身の人間だからなのかも知れませんね。

——引用おわり——

■奈良 隆正:NARA コンサルティング

上海を訪問したのは4年ぶりぐらいですが、やはりと言うか思ったとおりと言うか町並みは大きく変わっていました。これも上海万博までで収束して行くのでしょうか。それとも国際的イベントとは無関係に発展、変化し続けるのでしょうか。大変興味のあるところです。

さてフォーラムについてです。

初日は上海のソフトウェア技術者の教育について、現役バリバリの先生方から直接聞くことができて、大変参考に成りました。(影の声;でも一寸、一部は大風呂敷では?という気がしないではない)2日目は日本からの参加者から多岐に渡りトピックが提供され大変に有意義なものでした。特に SS4 の木畑さん、趙さん、森谷さん、杉田さんのプレゼンは日本国内に居てはなかなか聞けない現地の実状を聞かせてもらい、大変勉強になりました。やはり現実は厳しいし、本音と建前が交差して皆さんがご苦労されて居ることが良くわかりました。もしこのフォーラムを続けるのであれば、SS4の様なことを中心に、日本からもこれに対応するトピックを提供し、多少時間を掛けてディスカッションできれば双方にとって有益だと感じました。また、中国で頑張っている日本人に合せて、ネットワークが広がったのも収穫の一つでした。この方々のご成功をお祈りしたいと思いますし、私でサポートできることがあれば遣って行きたいと思います。

最後に、参加者の皆さんに昼夜にかかわらずお付き合い頂き、日頃お目にかかれない光景を拝見できて、また一歩お近付け出来たように思えました。皆さんに感謝いたします。

#### ■森谷 幸平:WEIC

日本の本社から、上海の会社立ち上げの為に赴任を言い渡されて、調度1年になります。この間、中国の人々に受け入れられる、eラーニングサービスをいかに創り上げるかに頭を悩ませてきました。

現地で開発スタッフを採用し、大幅なローカライズを行ってきましたが、サービスの「品質の維持」、「開発の順序の混乱」、「納期についての意識の希薄さ」など、頻発する問題に向かい合う日々でした。そんな中で、皆様の、Instructional Design についての発表で、ソフトウェア技術者の育成に関する最先端の理論に触れられた事は、とても新鮮でした。

また、語学のeラーニングに携わる者として、Narratology のお話はとても興味深かったです。弊社の技術者への教育ではありませんが、エンドユーザーである学生の日本語学習を考えて見ても、「シナリオやストーリー」と「教育」は、深くリンクしているなあと、新たな発見がありました。学習者が、「教育」というものを、単にあるスキルや智識をマスターする為の拘束時間としてとらえるのではなく、将来の「成功の物語」を実現させるための自己投資であると認識すると、学習効果は、ものすごく高くなるのでしょうね。

まだまだ、ようやくビジネスが立ち上がり始めた段階ですが、上海にて根を張って事業をできるよう、がんばります。

#### ■趙 以諾:

初めて、こんなサミットのような集いに出ましたが、いろいろ、感想がでるはずだと思ったのに、結

局出ようにも出られなかったです。なぜかという、みんな、話していた話題がまだ、分からないところがいっぱいありますから、日本語どころか、中国語で聞いても、やはり、分からないところが分からないです。ですが、どちらかという、皆さんのおかげで、随分勉強になりました。

初日の英語サミットは英語とはいえ、僕に近い課題なので、なんとなく、意外と分かりやすくなりました。今の大学教育はやはり、理論を優勢とされている状態ですから徹底的に、そういう状態を変えるのは何十年以上ほどでかかってしまうかもしれません。交大、復旦などのような有名な大学をはじめます、教育改革に取り掛かりましたが、全国にわたるまで、どのぐらい、かかるでしょうね、注目しましょう。

翌日は日本語サミットでしたが、前半の時、いろんな概念と専門知識がいきなり出たか、頭がいっぱいになりました。かろうじて、聞き取ろうとして、少なくとも 40%分かった時もありますし、多くは 90%分かった時もありますし。微妙な感じでした。(^^)後半になると、話題が中国へ移ってきましたから、段々、分かりやすくなりました。自分の発表は原稿をちゃんと書いていたけど、最初の課題をぎりぎりまで、大体一週間前に急に変えて、残った一週間でやっと完成した。ですから、結局リハーサルを体験せず、本場に出ました。このような発表という、高校二年、生物系の研究発表をやったことがあるけど、外国語で発表するのは初めてでした。しかし、皆さんのご協力と理解をいただいて、一応、終わりました。感謝いたします。

皆さんの課題の中では、一番印象深いのはやっぱり、ID という概念でした。中国ではあんまり、聞いたことがないので、今度、もっと深く、分かってと思います。科学的に、人材を育つのは、効率だし、時代の求めに応えるし。これから、中国にも普及してくるに違いないと思います。IT 技術は何よりも、発展しやすいので、これから、どういう風に、勉強すれば、時代遅れになれないことは、今度の課題になるかもしれません。人間はエネルギーと時間は限りがあるので一生懸命ならったものはあつという間に、使えなくなっちゃうかもしれません。もっと競争力がある人になりますよう、私たちは、がんばらないといけません。

#### ■川嶋 大: 杭州富士制冷機器有限公司

現場技術者、研究者の立場から各取り組みに対して闊達な意見交換アドバイスがされてとても熱気満ちたフォーラムでした。

中国現地法人の総経理の立場としていくつかの管理指標を気にしています。その中で人材の指標、育成の仕組みに関して今回参考になると思ったのがIDです。中国では高技術者の離職率の問題が出ますが、これは適正な教育投資、と適正評価をすることで日本並み(それ以上)の定着率を保持することができます。弊社もそのように考え、実際に離職率は低く抑えています。しかし、教育に関しては社内教育、OJL, 海外研修など技術者水準に合わせて実践していますが組織が

大きくなるに連れ、適正に実行されているとは思えず、やはり体系的なモデルを持ち合わせていないと将来の組織設計を考える上では課題と考えていました。ID手法を参考に適正な教育体系を検討していこうと考えています。

今回はサブタイトル”皆既日蝕フォーラム”でした。上海では場所により大雨だったようですが見ることができたでしょうか。私は杭州に戻っていたため、見事な日蝕をみることができました。こんなにも自然の力に感動したのは初めてのことです。何度でも見たいものです。以上です。

#### ■杉田 義明:福善上海 IT

「上海で皆既日蝕があるよ、ついでにフォーラムでもやりませんか」と冗談のつもりで話をしたら、米島さんが SIGEDU の年間計画に「疑問符」付きで掲載してしまったのが今年の 3 月だった。早速牧野さんの早期アナウンス作戦が動き出し、日本からの参加者が見込める状態になったのを受けて、フォーラムの開催が決まった。ところが今度は先生方の参加が多く見込めるとなると、岸田さんが上海コネクションを活用して、この機会を利用して日中大学の技術者養成に関するフォーラムをやって、大学同士での本音を聞いたら面白いと言い出し、ついに史上初のダブルフォーラムが実現してしまった。参加者は国際フォーラムが 24 名、皆既日蝕フォーラムが 20 名と、当初想定した規模を越えてしまったが、レトロな上海科学会堂でなかなか充実した意見交換が実施できたと思われる。

20 日の国際フォーラムは中国側と日本側に分かれての発表と意見交換で、上海交通大学、復旦大学でのソフトウェア専門学院を中心にした教育の状況を知ることができた。実践教育や高度技術者教育への取り組みも行っているようで、ほぼ理想形で教育が実施されているらしい。最後に登場した居先生は昨年の上海教育ワークショップの基調講演での話を展開されると想像していたが、さにあらん現在の中国の産業と雇用のミスギャップを取り上げ、問題提起をしながらの展開であった。最後は先生の提唱している BOK(Body of Knowledge)の知識の集約化とそれらのサービスの事業化に結びついていた。昔からお付き合いしているが年齢とともに指摘が鋭く、断定的になっていくのは頼もしい。

日本の先生方からの発表は初めて聞く内容が多く興味深かった。中国の参加者の反応が気になったが、意外に質問や意見が出てきたのでまあ少しは相互の理解が進んだのではと想像する。日本での情報系卒業生と受け入れ企業とで需給のバランスが極端に崩れている状態を中国の大学人はうらやましいだろうなと思いながら議論を聞いていた。

21 日の日蝕をフォーラムは 4 セッションで発表者が 15 名でさまざまな内容であり、まあ言わばソフトウェア最新の話のオンパレードであった。折角日本から上海まで来ていただくからには、何かしら発表を期待したいし、またご本人も発表したという実績が必要だろう考えたから、単純に発表は 1 人 10 分で発表の後セッション毎の討論を期待していた。実際は発表時間の不足や発表内容

の質問に終始した。それぞれの発表には問題提起が多くあり、討論のネタとしては十分にあり、今後それらを取り上げ掘り下げる動きをやって見たい。私も中国の OSS の現状についてプレゼンしたが、中国でのコミュニティ活動の比較対象として google group の地域別グループ数を算出し、ネットワーク上での中国内での OS 活動が日本をりょうがする数であることを是非伝えたかった。

本来の目的の皆既日蝕の天候は曇り時々雨で、観測としては最悪の条件だったが、何とか欠け初めの太陽を数秒間見ることができ、6 分近い暗闇も経験できた。前日まであんなに天気が良く、20 日などは 40 度を超えたらしい、それが何で皆既日蝕の 22 日から、天候不順が続くのか、あの暑い上海に戻って欲しいものだ。イベントの精算も済んで(内容は SEA 上海支部 HP にて報告)1800 元近い黒字が出て、前回と合わせると次回からは会場費くらいは少々赤字でも開催できそうだ。上海の暑さに閉口して次回はもっと過ごしやすい秋というのが、参加者からの要望のようだ。是非また上海で再見。

#### ■魯 玉芳:福善上海 IT フォーラム事務局

去年の 1st SEA 上海 Software Forum が終わって、ほぼ一年になりますが、皆既日蝕が話題になったおかげで 2nd-3rd SEA 上海 Software Forum が 7 月 20 日~21 日上海科学会堂で多くの参加者のもとで行われました。大学の先生たちは今回の forum でそれぞれの立場から情報を交換しました。中国側の 3 名が紹介したのは一般的な事情と思いますが、日本側の話題はソフトウェア分野での最新課題で、現在の私にとって理解するのはまだ難しい状態ですが、「アンブラグド」、「PA/PD」や「e-learning」等のキーワードを知り、本当にいい勉強になりました。

または中国の街中に営業しているソフトウェアトレーニングセンターのことですが、趙さんが紹介されたように、表は華やかで、裏の内容はほとんどありません。目的は教育ではなく、お金にあります。大量の生徒を集めている日本語教室などのトレーニングセンターと同様です。私は前の会社でトレーニングセンターを利用して教育を実施してみた経験から、そのことをしみじみと感じています。

杉田さんと一緒に Google Group で調べた中日 OSS 事情の件で、コミュニティの数の上では中国側は勝っており、内容が伴っていれば心強いですが、一体どうなっているのかなあ。

残念なことに、350 年ぶり上海での皆既日蝕ですが、雨のせいで私の「ダイヤモンド」は台無しでした。幸いなことに、終わる前に曇りが散って行って、1/4 のリングが一秒くらい見えていました。去年の年末からずいぶん話題になっていたのに。本当に惜しかった！わざわざ日本から海をこえて来られた皆様には本当に申し訳ございませんでした。代わりにおいしい料理でお詫びいたします。

#### ■米島 博司:NEC ネットエスアイ

二回目の SEA 上海フォーラムは、20 日の教育国際フォーラム、21 日の最新のソフトウェアの課題とその方策・皆既日蝕フォーラム、ともに盛況で、大変有意義だった。中国ソフトウェア技術者育成の状況 も昨年以上に詳しく把握することが出来た。また、たまたま出くわした皆既日蝕の貴重

な感動的体験も 忘れ難い思い出となった。以下に時間を追って感想を綴る。

#### ○18日現地入り～19日前夜祭

今回の上海訪問は、浦東空港での熊本大学の鈴木先生と待ち合わせから始まった。昨年乗れなくて悔しい思いをした”マグレブ”(リニアモーターカー)に乗り、時速430kmの、翼をつければ完全に舞い上がりそうな高速空間移動を体験し、地下鉄 2 号線経由で南京東路駅に降り立った。むせ返るような熱気と人の波をかき分けてホテルにチェックインした後、18日現地入りの皆さんと夕食をともにした。昨年体調を崩し、基調講演をしてくださった JU Dehua(居徳華)先生のご招待晚餐に欠席したいわくつきの留園で円卓を囲んだ。昨年メンバに加え、久々に合う仲間や予想外の飛び入り参加者も一緒に翌日一日のみの市内観光や、フォーラムへの期待、日食のお天気予想の話題に時間のたつのも忘れ、第一日目の夜は更けていった。

#### ○19日(日)上海市内観光

昨年は市内観光の時間もなく慌しく過ぎ去ったが、今回は丸一日余裕があった。鈴木先生、和田先生と一緒に遊覧船にでも乗りましようかとバンド(bund: 埠頭)へ行ったが、万博に向けての工事で立ち入れない。仕方なく、観光隋道で黄浦江の底を対岸へ渡った。以前来た時は田んぼが広がっていたとの 和田先生のガイドを聞きながら、新興商業地域に聳え立つ高層ビル群を眺め川べりを散策した。当初の観光遊覧船に乗るには、元のバンド側に渡らなければならないらしく、一旦フェリーに乗って元の岸に戻ってからようやくぎりぎりで12:00発の観光遊覧船に乗った。

黄浦江を北東に河口のほうへ下ってまた戻ってくる 1 時間ほどの遊覧だったが、その昔日本人女性の女優が住んでいたという歴史的建物を和田先生のガイドで教えてもらったり、工場、近代的なビル群などを眺めながらエネルギーな上海の息遣いを感じた。

川風に吹かれれば少しは涼しいだろうという期待は見事に裏切られ、熱風と強烈な日差しに汗だくになったが、早々降参してエアコンの効いた階下の室内に避難したのは、鈴木先生だけだった。遊覧船を降りて、ともかく涼しいところへと、最寄のデパート内にあるレストランで遅い昼食をとった。ファミレスのような中華料理にも関わらず、蟹のなんとか炒めを頼んだところ、暇をもてあましているウェイトレスたちがみんなテーブルによってきて、初めて見るような眼でじろじろ見るので、「見たことないの」と聞いたら、黙ってにこにこ微笑んでいた。

夜は再び19日到着組みのメンバを含めホテルの近くの揚州料理を囲んだ。上海でJazzを聞きたいとの鈴木先生の要望により、杉田さんの案内で和田先生と4人、バンドにあるライブハウスに行った。生憎と前座はJazzならぬブルースという割にはハードであまり上手くないお兄さんの歌を聞きながら、カクテルをなめなめ、早く真打登場しないかと粘ったが、翌日もあるので早々に引き上げてしまった。

#### ○20日 中日教育国際フォーラム

前半の上海(中国)再度セッションは、岸田さんが座長を勤められ進められた。はじめに、200



0年に政府主導で設置された、35のソフトウェア・パイロット・スクールのうち、上海交通大学と、復旦大学の二つの事例が発表された。

沈 備軍先生(上海交通大学)からは、同大学における産学連携による IT 技術者育成の事例が紹介された。九州大学の荒木先生の事例と共通するテーマで、いずれも成果は充分得られるものの、一方では、連携の難しさもあること今後の課題と感じられた。

臧 斌宇先生(復旦大学)からはソフトウェア技術者というよりもコンピューターサイエンスの基礎学力を強化するための活動が報告されたが、上海交通大学の事例とはかなり異なるアプローチに思われ、35のパイロットプロジェクトに与えられた指針の詳細がどのような百戸だったかに興味を湧いた。

中国側発表の最後は、居徳華先生(華東理工大学、ASTI)で、中国におけるソフトウェア技術者育成の現状や、特に技術者の絶対数が不足していること、それに対する国家レベルの対策の現状や問題点などについて示された。昨年11月のSEA 上海・sigedu 合作の教育ワークショップでも同様のテーマが示されたが、今年も新たな展開について説明された。二桁億人の人材を抱える中国においては、若い技術者を育成する上でも、現在定年を過ぎたまだまだ働き盛りの高度技術者のパワーを活用することが重要と熱く語られる先生の姿勢にあらためて強い共感を覚えた。これに比べて、人材リソースが桁違いに少ない日本の現状を振り返ると薄ら寒さを覚えてしまうのは私だけだろうか。

中国側のお二人の比較的若い世代の先生の発表と、Ju先生の文革以前の世代のお話を比較しながら聞き、ソフトウェア技術者の育成における今後の課題や、反面、大いなる可能性の存在を認識した。

また教育分科会の立場からは、Ju先生がID(Instructional Design)も活用しながら、現状のソフトウェア技術者教育のあり方をTransformしなければならないと訴えられたのに対し、お二人の先生がIDの存在をご存じなかったという点も印象に残った。IDerとしては、中国は偉大なマーケットになるのだろうか。

後半の日本側セッションは私が座長を担当し、三人の大学の先生から発表していただいた。九州大学の荒木先生、和歌山大学の鱒坂先生、熊本大学の鈴木先生のお話は座長役で時間のキープに気をとられていたので、他の参加者の感想にお任せしたい。一つだけ、中国側の参加者の一部の方が携帯電話のためか途中席をはずされていたのが残念だった。

懇親会は、科学会堂の近くの四川料理だった。年とともに辛い料理が不得手になってきていて、汗をかきながら舌鼓を打った。この後日本側の有志(勇士)はさらに二次会へと繰り出し国際交流を展開した。

## ○21日(火)皆既日食フォーラム

フォーラム二日目は日本人による4つのセッション、15名の発表があった。様々なテーマで色々な話が聞けたのは大変楽しかった。発表者に対して参加者が改善提言(突っ込み)をびしばし

と入れる SEA— Sigedu 的な議論がもう少し盛り上がりればもっと良かったが、時間の制限もあり仕方がなかったか。

詳細な内容は省くが、一日目の中日フォーラムでも中国参加者の中でも ID を知らない方が多かったが、この日も ID をはじめて知ったという方が居て、興味を持ってもらうことが出来て意味があった。

#### ○22日(水)皆既日食から帰国まで

日食は生憎の曇りと雨で皆既日食状態の5、6分は全く見る事が出来なかったが、欠け始めは数回、雲の隙間から見る事が出来た。満ち始めは、一回だけ雲間から三日月状態の太陽が見えた。それよりも何よりも完全に隠れている5分位の夜の状態とその5分程度前後は感動的な体験だった。ホテルの近所の人民広場内の蓮の花の池のそばでみんなで見たが、9時15分過ぎから徐々に薄暗くなり始めると、それまでうるさかった蝉の泣

き声がぴたりと止んで、観測する人たちの声だけの静かな世界になった。そのうちに、光センサーで ON/OFF する街灯や、池のほとりのレストランの照明、公園の森の向こうの町のネオンが点灯し始め、完全に夜の上海が出現した。周囲の中国人も日本人も、幻想的な世界に歓声を上げることも忘れ、「ほおー」というため息が聞こえるだけであった。隣に居た牧野さんは、「ほんまや、真っ暗になるんや」とのたまうので、「あれ、信じてなかったん？」と聞いたところ、「うん、まさか、ほんまにまっくらになるとは思ってなかった」と。日差しの消えた5分間は、気温が下がり、普段の夜よりも涼しく感じた。赤外線威力はすごい。太陽の恵みの偉大さを初めて痛感した。太陽を神と仰ぐ気持ちが完全同意できる。今なら。

もうひとつ、5分が過ぎると徐々にというか暗くなる時よりも早い速度で明るくなっていったのが予想外であった。雲間から見えた爪のように細い三日月状態の太陽でも曇りの日の昼間のような明るさになっているのだ。ダイヤモンドリングもコロナ観測も出来なかったが、素晴らしい体験をした。次のチャンスは日本で46年後か。天国から見る事が出来るのだろうか。「地獄からだろう」という声が聞こえる。持つべきものはよき友である。

#### ■牧野 憲一:オムロン ソフトウェア

2008年11月に開催した”SEA SIGEDU-WS”以来の上海訪問であった。一年前の同期にはまだ上海の駐在員だったが、とても懐かしく思う。上海に到着した20日の気温は40度を越したとか、昨年そんなに暑かったのだろうか？記憶に無い。

フォーラムの会場である上海科学會堂は、昨年9月に開催した”ソフトウェアフォーラム”以来である。本館の建物は格調が高く、中庭の芝生がとてもマッチしている。そうそう、とても暑い日であったが、日蝕記念フォーラムの昼食後、この芝生で記念撮影をした。ご協力に感謝！素敵な記念写真が撮れた。

都合により”日中教育フォーラム”に参加できなかったのが残念である。参加者が 20 名を越える盛況ぶりが凄い。

皆既日食フォーラムは、”参加者にはできる限り発表していただく”を方針に掲げ、一人持ち時間 10 分と欲求不満の発表者もおられたことと察するが、セッション毎に議論中心にしたことは良かったと思っている。10 分だと眠くならないとの参加者の意見もあった。座長各位にはタイムキープと進行をお願いしたが、完璧にこなしていただき感謝感謝！なにせ定刻に終了しないといけない会場だから。和田先生には実演の準備をしていただきながら、結局は一つしか実演していただけなく申しわけない次第である。最後のセッションは、中国に関するセッションとしたが、参加者全員興味深く拝聴した。やはり現地ネタは新鮮だし、実感がこもっている。進行上の反省点として昼食時間を長く確保しすぎたことである。会場内で食事を摂る場合は、もう少し短くても良い事を学んだ。

懇親会は更にメンバが増えて楽しかった。人数の関係で二つのテーブルに分かれることから、交流が少し分断されたのが残念である。食事は事務局の魯さんがチョイスしてくださったが、過去の例からしても安心して食べられる。細やかな配慮が嬉しい。とても美味しくいただいた。

皆既日食観測ツアーはあいにくの天候で、準備した観測グラスが必要ないくらいだったが、あれほど厚い雲にも関わらず、5 秒程度部分日蝕が観測できたのは奇跡である。私は信じていなかったのだが、見えなくても皆既日食の時刻になると辺りが”白昼の闇夜”に変わった。薄暗くなってきたと思ったら急激に闇夜になった。とても貴重な体験である。この貴重な時間をフォーラムメンバと過ごせたのも感慨深い。

日蝕観測の後は、上海博物館で中国を学び、新春フォーラムで触れたL社を訪問し、CMMI Level4 に基づく開発管理を説明していただいた。

2008 年 9 月に駐在を終え帰国したが、久しぶりに訪問した上海で戸惑ったのは、道路の横断であった。すでに日本の文化に感覚が戻っており、道路を横断しようとして、”あっ、危ない！”となった。交通事情の違いは日本とは大差がある。わずかな時間を見つけては、数名の上海の方と再会を果たしたが、皆一様に再会を感激してくれた。早や懐かしい。

以上が、今回の上海訪問であるが、とても有意義な 4 日間であった。次回、上海を訪問する機会があるかはわからないが、躍進目覚しい中国、特に上海から目が話せない。経済やITについては引続き自分なりのウォッチを継続させる。再見

5. フォーラム風景写真館



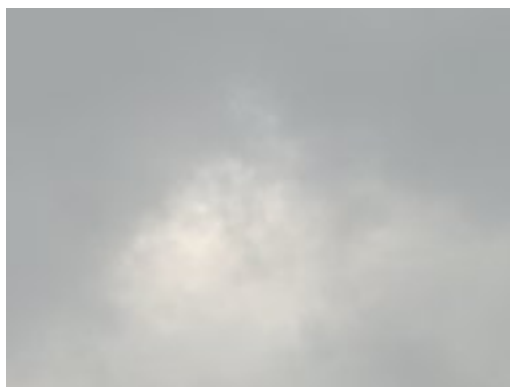
皆既日蝕フォーラム発表風景



上海科学會堂中庭にて記念撮影



観測グラスを装着して観測ごっこ？



あいにくの厚い雲です



辺りがだんだん暗く(9時35分)



白昼の間夜(9時40分)